

第2回 秋川高校跡地及び秋川高校跡地周辺地区のまちづくりに向けた有識者会議要旨

日 時：令和5年11月20日（月） 15:00～17:00

場 所：あきる野市役所 別館第1会議室

出席者：饗庭座長、下村委員、朝日委員

<進行：事務局>

■前回の振り返り 《説明：事務局》

■検討区域のポテンシャルについて 《説明：事務局》

【意見交換】

（下村委員）

- ・大きい企業を誘致するのか、中小企業を複合的に誘致するのかといった企業のボリューム感を考え、企業誘致の条件を明確に設定した方が良い。ポテンシャルだけをみてもどう考えたら良いか分からないため、目指すべき姿との適合性を図るべき。

⇒（事務局）

- ・所有地処分がまだ済んでいないため、まだ具体的な企業誘致の構想はない。

（朝日委員）

- ・大きな企業を誘致する場合は、撤退された場合を想定すると脆弱であるため、地域にとって持続性があるかどうかの視点で考え、サステナブルを意識するならば、住宅の入れ替えといったマネジメントができる体制づくりが必要で、企業誘致と住宅の入れ替わりを一体として考えた方がよい。

（饗庭座長）

- ・土地利用附図と用途地域との整合性をとっておいた方がよい。
- ・土地利用構想案で憩いの話をするならば、憩い需要のポテンシャルの話も欲しい。日常的な憩いなのか広域的な憩いなのかはっきりさせた方がよい。加えて農業需要と商業需要も調べて整理するとよい。
- ・需要のみでは課題にならないため、需要に対する供給も考えた方がよい。今回供給できるのは土地のみであるため、人材がどの程度いるか等を確認する必要がある。

（事務局）

- ・都立あきる野学園は、多摩地域の特別支援学校を集約していることなどから、当初よりも需要が高くなっている。これまでの経緯を踏まえると、福祉においても共生していかなければならない。

⇒（饗庭座長）

- ・このような状況から、東京都の中でも唯一無二のポテンシャルを持っていると考えられるため、福祉をどう捉えるかが重要である。障がい者雇用の進んだ企業に参入してもらい、インクルーシブな拠点を形成してはどうか。

（事務局）

- ・あきる野市内の住宅地にも都市農地が存在する場所があり、市の特性から農業振興地域内の農用地が多い。農地を保全しながら、一次産業のポテンシャルを考えなければならないため、既存農地と産業の連携をどうするかが悩みどころである。

(下村委員)

- ・あきる野の野菜でブランド化されているものはあるのか。

⇒ (事務局)

- ・のらぼう菜という茎野菜やトウモロコシがあり、市内にも数か所個人で出荷する直売所がある。あきる野市の農協は市場出荷を行っていないため、企業の求める需要に対して供給できるかどうか考える必要がある。

(朝日委員)

- ・農業をやりたい人は、農業を使い新しいライフスタイルを求めているのか、純粋に農業やりたいのか。

⇒ (事務局)

- ・どちらの考えの人もいる。
- ・担い手の高齢化は進んでいるが、農業をやりたい若い人も入ってきており、行政としてマッチングを進めているところである。

⇒ (朝日委員)

- ・農業としての生産性をどのように考えるか整理する必要がある。

(饗庭座長)

- ・農産物の加工工場を誘致するほどの規模ではない。

⇒ (事務局)

- ・生産の規模が小さいので、観光的・商業的な農業を取り入れていることが多い。(農産物を使った料理が味わえるレストランなど)

⇒ (下村委員)

- ・農地付き住宅や野菜のネット販売など、農業と連携した新しいライフスタイルを取り込んではどうか。

⇒ (饗庭座長)

- ・まちの区画整理の中で、農を取り入れた生活を試験的に実施し、爆発的に流行ったら導入するくらいの方が農産住がバランスよく配置されると思う。

(事務局)

- ・コロナ禍を要因に住宅は増えてきており、特に旧秋川市の市街地、特に南側は住宅需要が高い。

(饗庭座長)

- ・住宅と産業の混合には注意が必要である。
- ・秋川駅から検討区域までの道に飲食店が入るなど、秋川駅からの回遊性が生まれるとよい。

■土地利用構想について 《説明：事務局》

【意見交換】

(下村委員)

- ・メタセコイア並木を横切って道路整備をすると、根が枯れてしまう可能性がある。

⇒ (饗庭座長)

- ・企業のインフラとして活用するなど、緑を生かしたゆとりある産業空間にできるとよい。

(事務局)

- ・都立あきる野学園が一部拡張工事を行っていることを考え、どのような産業にするか検討した方が良さそう。

(下村委員)

- ・樹木の維持にはかなりのコストがかかるが、無駄な枝を何年かに一度手入れをする必要がある。そのため、本来であればメタセコイアの実態調査が必要だろう。
- ・木材チップにして販売するなど、地域内で循環的に利活用してはどうか。

⇒ (饗庭座長)

- ・誰がどのように管理するかといったエリアマネジメントのようなものを取り入れるのが良いだろう。

(饗庭座長)

- ・道路は南北でのみ整備することとし、メタセコイア並木は分断しない。(案1の方向で検討を進めたい。)
- ・案1のメタセコイア並木真横の南北道路は、このままの位置では並木との間が狭く、間の空間が緑地利用しかできない。そのため、南北道路を日の出福祉園の敷地の真ん中を横切る形にした方が良いのではないだろうか。その場合、都立あきる野学園の北側にも道路が必要になることも考えられる。

■その他【連絡事項等】

- ・第3回有識者会議は1月中旬～下旬に実施する。

(以上)

